

みんなで考え、みんなで創る2030年の新潟市
～より住みよく暮らしたいまちにするために～

みんなで新潟市の ミライをかたる

ワークショップ



次期総合計画策定に伴うワークショップ運営業務

報告書

令和4年3月 新潟市

INDEX

1.開催概要	
・開催の目的、名称・テーマ、開催日時、会場、参加人数、スタッフ	3
・参加者一覧	4
・招待状&チラシ	5
2.ワークショップ	
・当日プログラム	8
・感染症対策を施した受付対応、肩慣らしワーク	9
・オープニング	10
・ワークショップのスナップ	11
・新潟市の魅力（肩慣らしワーク）のまとめ	14
・各テーブルの模造紙と各班の発表	15
3.ワークショップで出された意見のまとめ	
・テーマ1	20
・テーマ2	22
・テーマ3	26
・全体のまとめ	28
4.ふりかえりシートのまとめ	36

1. 開催概要

〈1〉開催の目的

新潟市が目指す姿の実現に向けた取り組みを示す最上位計画の次期新潟市総合計画策定に係り、これからのまちづくりの方針や取り組みの方向性について、多様多世代な市民からの意見を取り入れることをテーマに、ワークショップを開催する。

〈2〉ワークショップ名及びテーマ

みんなで考え、みんなで創る 2030 年の新潟市
～より住みよく暮らしたいまちにするために～

〈3〉開催日時

2021 年 11 月 7 日（日） 13：30～16：00（2.5 時間）

〈4〉会場

新潟ユニゾンプラザ 大研修室（新潟市中央区上所 2 丁目 2 番 2 号）

〈5〉参加人数

多様多世代な参加者、計 36 名（公募：3 名、属性別募集：33 名）
※次頁に詳細を掲載

〈6〉スタッフ及びファシリテーター

- ・メインファシリテーター：大滝 聡
- ・サブファシリテーター：山賀昌子
- ・テーブルファシリテーター：横尾文子、成田倫史、長谷川敏栄、丸藤文子、知野孝子
- ・記録（カメラマン）：坂本裕一
- ・事務担当：佐野智香、野澤葉子



当日の会場風景

全世代WS参加者一覧

- (1) 転入者
- (2) 外国人
- (3) 障がい者、または障がい者の支援団体の方
- (4) 勤労者（会社員や自営業者等）
- (5) 農業者
- (6) LGBT
- (7) 大学生
- (8) 公募参加者（高校生含む）



ワークショップ終了後に行った全員の記念撮影

事業の概要

みんなで考え、みんなで創る2030年の新潟市
～より住みよく暮らしたいまちにするために～

みんなで新潟市の ミライをかたる

ワークショップ

11月7日(日) | 13:30-16:00
13:15までに会場へお越しください

新潟ユニゾンプラザ 大研修室
新潟市中央区上所2丁目2番2号



- ◆新潟駅万代口（8番のりば）から路線バスで約15分 ユニゾンプラザ前で下車
- ◆駐車場あり

主催：新潟市
企画・運営：NPO法人まちづくり学校

参加者に送ったワークショップの招待状 & チラシ（表面）

招待状

Invitation

様

No. _____

このたびは、ワークショップにご参加いただき、誠にありがとうございます。

下記のとおり、ご招待させていただきます。

新潟市の未来をみんなで考え、みんなで創るために、当日は、多くの人たちと熱い思いを語り合しましょう！

心よりお待ちしております。

新潟市長 中原 八一

タイムテーブル

Timetable

- 12:45 受付開始（受付後、肩慣らしワークへ）
テーマ：あなたが感じている新潟市の魅力
- 13:30 オープニング
主催者挨拶、趣旨説明、総合計画の概要説明、他
- 14:00 ワークショップ 1 ラウンド
テーマ：住み続けたい、暮らし続けたいまちとは
- 14:20 席替え
- 14:25 ワークショップ 2 ラウンド
テーマ：新潟市にはどれくらいその条件が当てはまるか
- 14:45 休憩
- 14:55 「新潟市の魅力」まとめ結果の発表
肩慣らしワークで出していたいただいた意見の集約
- 15:00 席替え
- 15:05 ワークショップ 3 ラウンド
テーマ：2030年に向け新潟市が目指すべき方向とは
- 15:25 全体発表
各グループで行われた話し合いのポイントを発表
- 15:45 クロージング～記念撮影
ふりかえりシートの記入、挨拶、全員の記念撮影
- 16:00 終了

※詳しい説明は、別紙配付している当日プログラムをご覧ください。
また当日は会場の暖房が工事のため、寒い可能性があります。
暖かい服装でおいでください。

ルールとエチケット

Rules and etiquette

1. このワークショップは時間（20分間）を区切ってメンバーを入れ替え、3回違った顔ぶれでグループでの意見交換を行います。
2. 大切な意見は必ず模造紙にマーカーで記録するようにしてください。
3. 人の意見を否定しないで、アイデアをどんどん付け足していくような話し合いになるようにご協力ください。
4. 時間になったらテーブルの中のどなたか一人を残して、メンバーは他のテーブルに移動してください。
5. ワークショップは3ラウンドまで行います。3ラウンドが終了しましたら、各テーブルのポイントを発表していただきます。

問い合わせ先

新潟市政策企画部 政策調整課
電話：025-226-2066
E-Mail：seicho@city.niigata.lg.jp

参加者に送ったワークショップの招待状 & チラシ（裏面）

2. ワークショップ

〈1〉当日プログラム

みんなで考え、みんなで創る2030年の新潟市
～より住みよく暮らしたいまちにするために～

みんなで新潟市の ミライをかたる

ワークショップ

当日プログラム
Program

12:45 受付開始
肩慣らしワーク
受付が終わりましたら、「あなたが感じている新潟市の魅力」を付箋に書いて、スタッフが指示するボードの模造紙に貼り付けてください。何枚でも結構です。貼り終えたら、10島あるグループのお好きな場所にご着席ください。

13:30 オープニング
主催者挨拶、趣旨説明、総合計画の概要説明、ワークショップの解説
※ワークショップは20分で時間を区切って、グループメンバーを交代しながら3ラウンドまで行います。これはできるだけ多くの方と意見交換をしていただきたいと考えているためです。

14:00 ワークショップ 1ラウンド
●話し合いのテーマ：あなたにとって住み続けたい、暮らし続けたいと思えるまちってどんなまちでしょう
このことについてグループメンバーと意見交換をしてください。

14:20 席替え お一人を残し、他の方は別のグループへバラバラにご移動ください。

14:25 ワークショップ 2ラウンド
●話し合いのテーマ：新潟市はどれくらいそうした住み続けたい、暮らし続けたいと思えるまちになっているでしょうか

14:45 休憩 (10分)

14:55 「新潟市の魅力」まとめ結果の発表
肩慣らしワークで出していたいただいた意見のまとめをスタッフをご紹介します。

15:00 席替え お一人を残し、他の方は別のグループへバラバラにご移動ください。

15:05 ワークショップ 3ラウンド
●話し合いのテーマ：2030年を見据え、新潟市のまちづくりはどのような方向に向かうべきでしょうか

15:25 全体発表 (各グループ2分)
各グループで行われた話し合いのポイントを発表します。

15:45 クロージング
ふりかえりシートの記入、主催者挨拶、全員の記念写真撮影

16:00 終了

主催：新潟市
企画・運営：NPO法人まちづくり学校

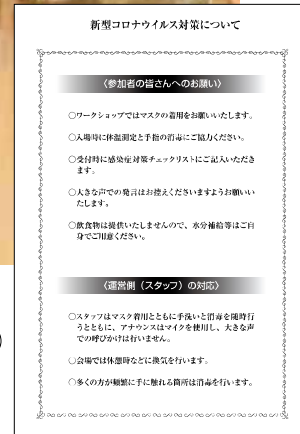
〈2〉感染症対策を施した受付対応

新型コロナウイルス感染症対策を徹底させるために、受付の前に消毒と体温測定のコナーを設置。また受付後には感染症対策チェックリストにも記入いただいてから会場に入る流れを作った。



感染症対策コーナーと受付風景

感染症対策について参加者に通知したお願い文書（右）



〈3〉肩慣らしワーク

肩慣らしワークというのは、受付が終了したら会場に入る場所で、「あなたが感じている新潟市の魅力」を付箋に書いていただいてそれを貼り出し、本編のワークショップの参考にしてもらうための導入作業を指している。

※新潟市の魅力の結果は、16P-17Pに掲載



会場入口に設けた肩慣らしワークのコーナー

〈4〉 オープニング

① 主催者挨拶、趣旨説明



主催者挨拶（坂井課長）

新潟市長の挨拶動画

② 新潟市の概要と次期総合計画の説明スライド資料

新潟市の概要について

新潟市
人口 約79万人
日本で16番目の大都市
【出典】総務省 住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数（日本人及び外国人の総計） 国勢は特別区に移す（2020年）

政令指定都市 8つの行政区

広大な田園環境と
本州日本海側の拠点都市
都市 と 田園 の 調和

新潟市総合計画について

総合計画
にいがた未来ビジョン

新潟市の市政運営における
最上位計画

**これからのまちづくりの
方向性を示す計画**

2015年度から2022年度
までの8年間の計画

新潟市総合計画について

次期総合計画について

- 2023年度から**2030年度**まで 8年間の計画
- 学生、子育て世帯などを対象としたワークショップや、アンケート等により、市民の皆さまから意見をいただき、次期総合計画策定に活かしていく。

市民アンケート

学生、子育て世帯向け ほか
各種ワークショップ

多様な手法で市民の意見を聞き取り、
これからの新潟市が目指す姿を描く

LINE新潟市公式
アカウントによる
インターネットアンケート

次期総合計画の策定

みんなで新潟市のミライをかたち
づくるワークショップ(今回)

LINEアンケートについて

計画策定に皆さまのご意見を！！

- LINEアンケート**
実施予定時期:11月下旬頃
参加者:新潟市LINE友達登録者なら誰でも

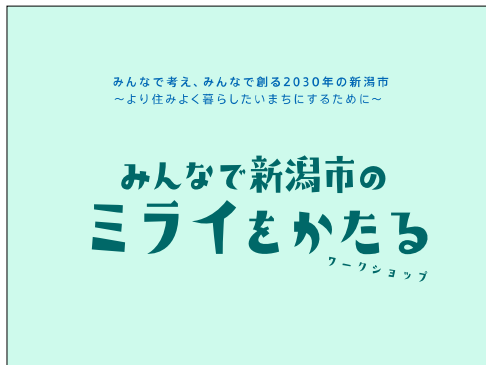
**今のうちに友達登録 &
アンケート開始後はぜひご意見を！**

LINE友達登録の際は、
希望する情報に
「市政情報」を登録ください。

新潟市公式
LINE

③スタッフ紹介とワークショップの進め方の解説スライド資料

ワー
クシ
ョッ
プ



1



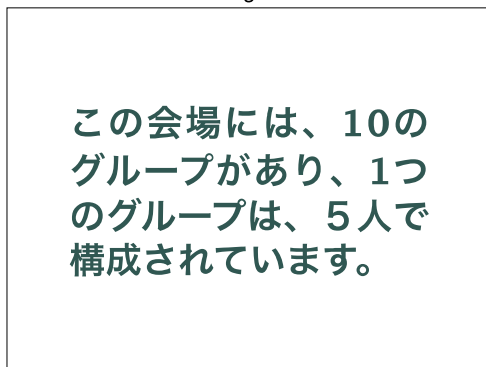
2



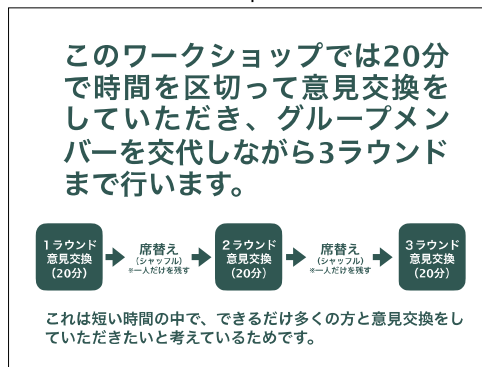
3



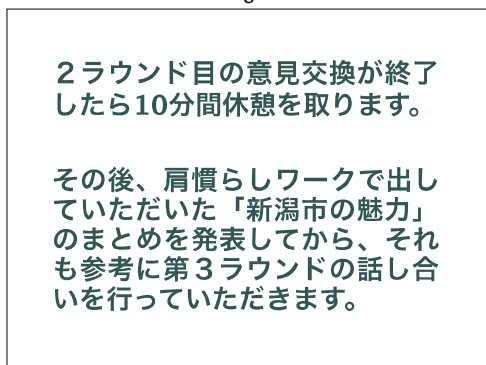
4



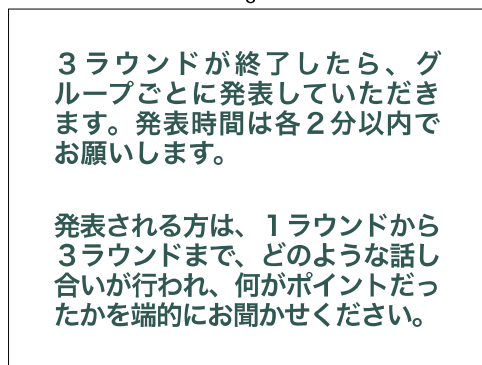
5



6



7



8

ワークショップ



ルールとエチケット

9

- ① 全員がお好きな色のマーカーを1本持って、大事だと思えることを模造紙の上に記録してください。
- ② 最初にテーブルホストをお一人決めてください。この人は前のラウンドでどんな意見が出たかを次に集まってくる人たちに伝える役目を担い、最後までそのテーブルに残ります。
- ③ 人の意見を否定しないで、アイデアをどんどん付け足していくような話し合いになるようにご協力ください。

10



各ラウンドの話し合いテーマ

11

1 ラウンドのテーマ

あなたにとって住み続けたい、暮らし続けたいと思えるまちってどんなまちでしょう

12

2 ラウンドのテーマ

新潟市はどれくらいそうした住み続けたい、暮らし続けたいと思えるまちになっているのでしょうか

13

3 ラウンドのテーマ

2030年を見据え、新潟市のまちづくりはどのような方向に向かうべきでしょうか

14

わからないことがありましたらお近くのスタッフにお声がけください。

それでは意見交換をスタートさせてください

15



解説時のスナップ

〈5〉ワークショップのスナップ (全9テーブル)

ワークショップ



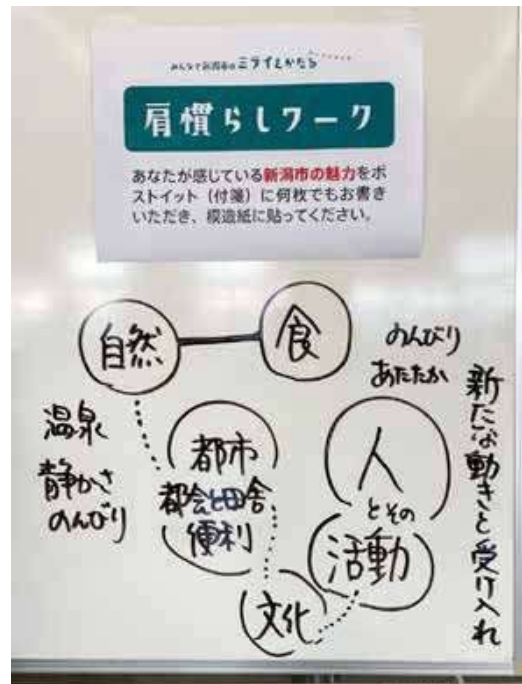
意見交換は、第1ラウンド～第3ラウンドまで、メンバーをシャッフルしながらそれぞれ20分間ずつ行った。

ワークショップ

〈6〉新潟市の魅力（肩慣らしワークで出た意見の集約）



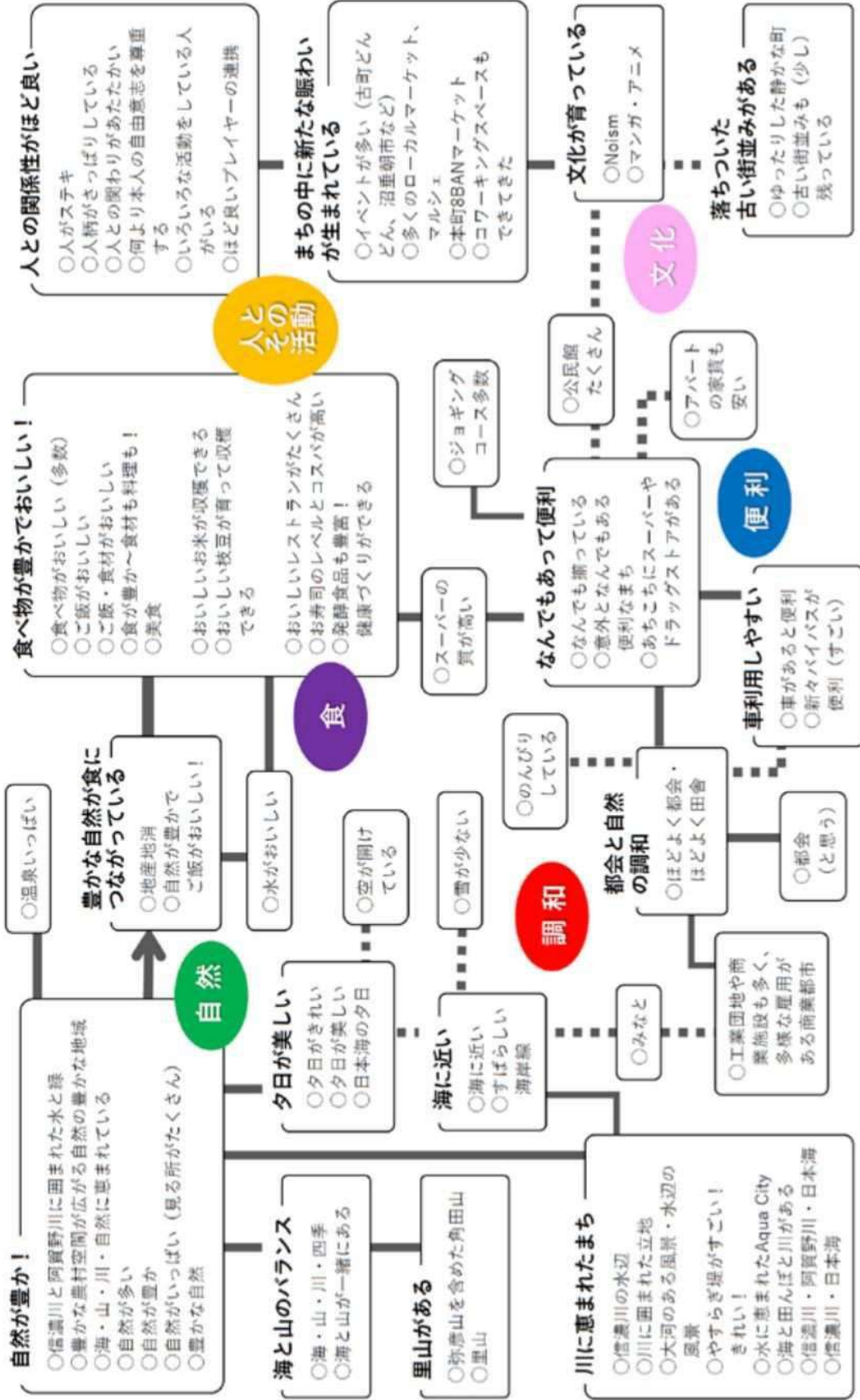
データ集約の作業風景



その場で集約した「新潟市の魅力」

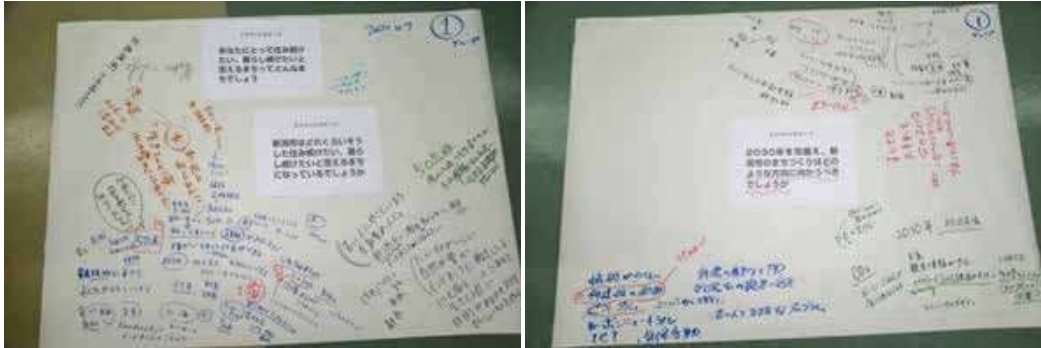
みんなで新潟市のミライをかたるワークショップ
2021.11.7 / 屏風らしワーク

私が感じている新潟市の魅力

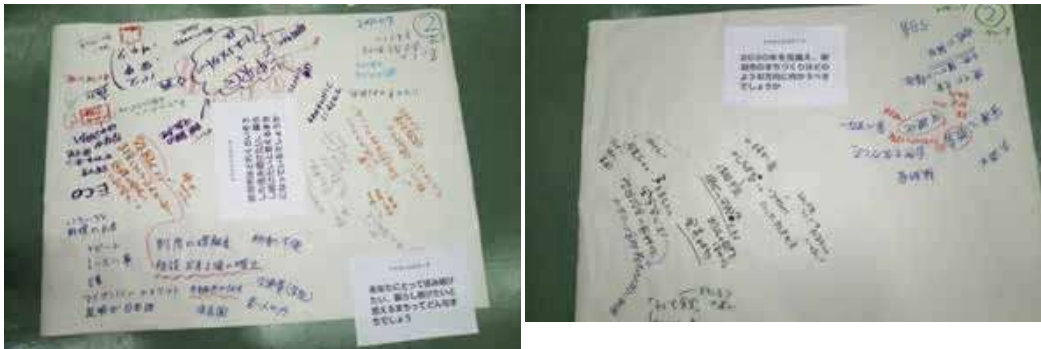


〈7〉各テーブルの模造紙と各班の発表

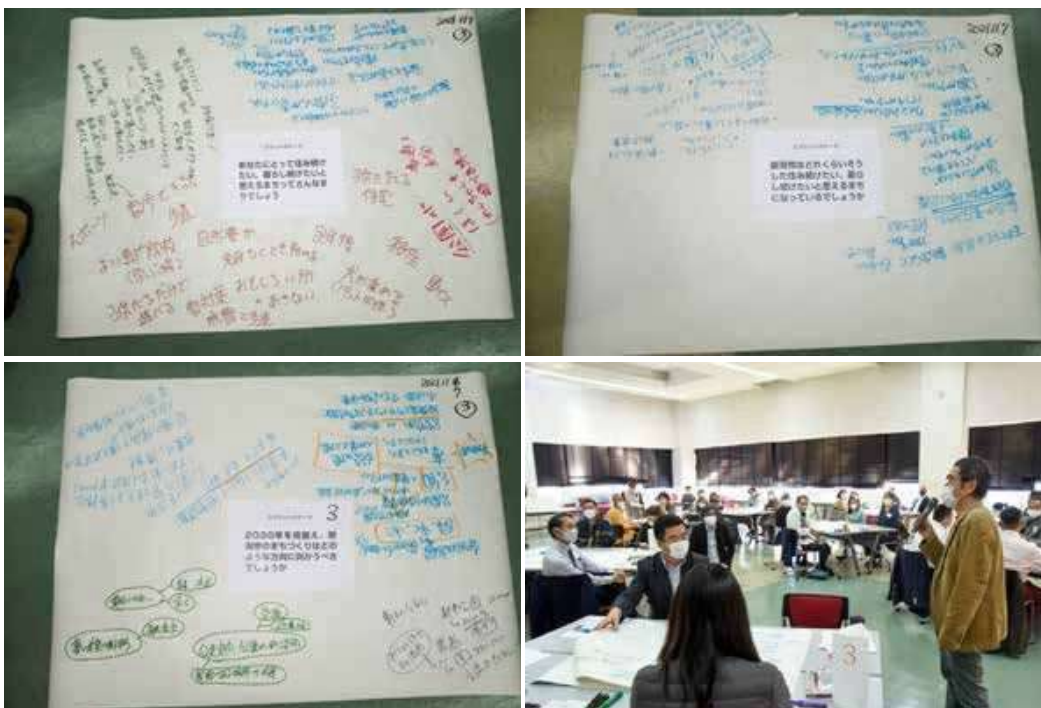
【1班】



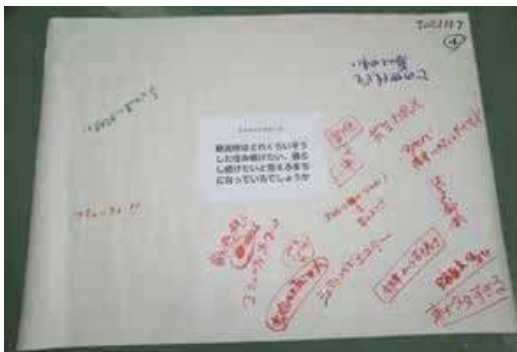
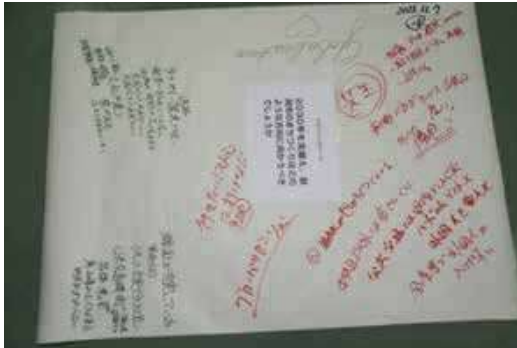
【2班】



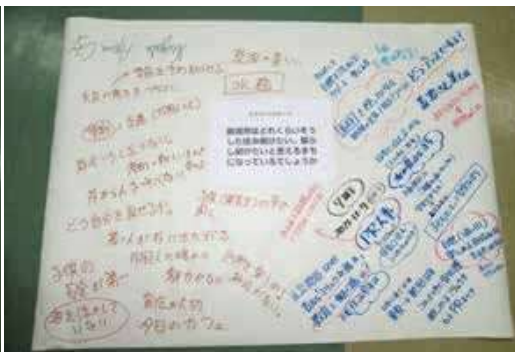
【3班】



【4班】

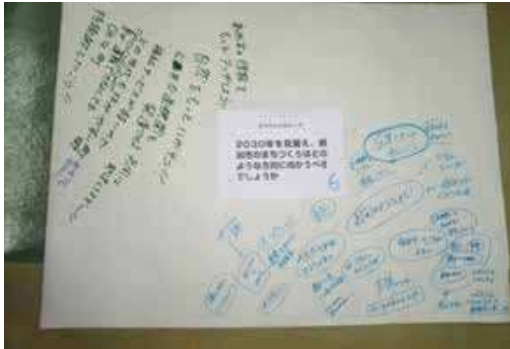


【5班】

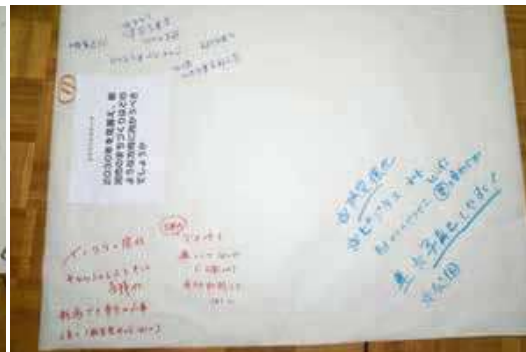


ワークショップ

【6班】



【7班】



【8班】



【9班】

ワークショップ



各班の発表のポイントを記録した模造紙

出された意見のまとめ

3. ワークショップで出された意見のまとめ

〈1〉テーマ1：「あなたにとって住み続けたい、暮らし続けたいと思えるまちとはどんなまちか？」

No.	班	テーマに対する意見	集類した意見
①	8	みんな、若者にとって夢・希望がもてる町、多様性を受け入れられるまちになれば暮らし続けたいまちになる。	みんなが夢や希望をもち、多様性を受け入れられるまち
②	8	治安が良いまち	何気ない日常の幸せを感じるまち
	8	ゆったりとした生活ができるまち。	
	4	コーヒーショップなど、なにげないコンテンツがある	
	4	非日常よりも、日常の幸せがある	
	4	ストレスがない	
	4	ゆったり過ごせる	
	4	ごはんがおいしい	
③	9	障がいへの理解が進み、受け入れられて、“一緒に暮らす”ことが普通になっている。	障がいがあっても不自由なく暮らせるまち
	9	障がいがあっても好きなことができるよう、外出するサポート・手段・手立てが十分に整っている。	
④	8	子育てしやすいまち	子どもにやさしく、子育てしやすい環境が整ったまち
	4	子供を3人以上そだてるような、子供にやさしく、子育て環境が整っている。	
	9	西蒲区の越前浜のように、食や自然環境が豊かで子育てしやすいまち。	
	3	子どもたちだけで遊べる場がある	
	3	子どもたちが暮らしやすい	
⑤	4	自然が多い	環境にやさしく、豊かな自然を感じられるまち
	4	空がたかい	
	4	空気がきれい、においが違う	
	7	程よく田舎、程よく都会であるため、心も身体も居心地が良いまち	
	7	都市と田園のバランスが良いまち	
	2	自然がいっぱいある。まちあるきが好き。	
	3	環境にやさしい	
⑥	3	おもしろい所あってあきない	好奇心をくすぐる変化に富んだ魅力のあるまち
	4	帰り道が楽しくなるような変化にとんだまち	
	4	好奇心があるまち	
⑦	1	若い人にやさしいまちであってほしい。インドネシアでは中高生のバス料金は半額か無料。	若者が夢や希望をもって、学び、働いているまち
	8	みんな、若者にとって夢・希望がもてる町、多様性を受け入れられるまちになれば暮らし続けたいまちになる。	
	1	若い世代を支えるしくみがあるまちがいい。	
	9	若者が元気よく働ける・暮らせる。	
	3	よい専門学校、学ぶ場がある	
⑧	4	やりたいことができる	自分のやりたいことが実現できるまち
	8	やりたい事ができる。起業や仕事、ライフワーク以外の充実があると良い	
	9	自分の夢を（東京に出なくても）実現できるまち！	
	9	自分の意思で好きなことができる。	
⑨	3	職場がたくさんある	働く場が充実していて、誰もが働きやすいまち
	7	生産する時代にあっているまち	

出された意見のまとめ

	3	女性が働きやすい	
⑩	4	東京へのアクセスがよい(車で4時間、新幹線で2時間)	首都圏とのアクセスがよく、ビジネスと暮らしのバランスがよいまち
	7	都市(東京)への交通便は良いまち	
	7	東京より移住し、時給自足で生活をしているがとても住みやすいまち	
	8	他地域、都会(東京とか)にもすぐ行けるまち。	
	6	ビジネスと暮らしのバランスが取れる。	
	7	都市と田園のバランスが良いまち	
	4	移住→家賃などが安いターン	
	3	生産する時代にあっているまち	
⑪	5	人と人とのかわりを保つ。人は人とふれあっているからこそ生きていける。コミュニティが大切。	近隣の助け合いが充実しているコミュニティがあるまち
	2	隣近所とうまく情報交換できるまちがいい	
	8	趣味などを通じたコミュニティがあると、子供や仕事、仲間、友人と地域活動ができ、住みやすいまちになる	
	8	仲良くなれるコミュニティがあると良い。	
	9	インフォーマルサービスがある。	
	8	思いやりのある地域、環境、人があるまち	
⑫	3	公園が整備されている、ペットOK公園がある	公園や歩道などが充実し、環境が整備されているまち
	3	歩道が整備されている、点字ブロックが整備されている(東区にはない、万代は歩道をひろげている)	
	3	散歩する道がある	
	4	歩いて発見できるものがある	
	3	スポーツができる環境、施設	
⑬	9	公共交通が充実している。	公共交通やインフラが整備されているまち
	3	雪対策が施された除雪と歩道	
	9	インフラ整備が整っている。	
	8	ライフラインが充実しているまち(電車、バス、新幹線etc)	
	3	シニアカー、車いすに乗る時がくるのに対応	
	4	車社会でドアtoドア	
	3	運転免許がなくても動ける	
	8	コンパクトシティなまち	
⑭	5	住み続けるメリットをこれから探していきたい。	その他
	6	いろんなところに住みたいから、住み続けなくてもいいのではないか。ライフステージによって暮らすまちを選ぶのもいい。	



出された意見のまとめ

〈2〉 テーマ2：「新潟市はどれくらいそうした住み続けたい、暮らし続けたいと思えるまちになっているか？」

No.	班	テーマに対する意見	集類した意見
①	3	新潟が一番住みやすい	暮らし続けたい環境が整ったいいまちである
	4	どの世代でも暮らしやすい	
	4	移住者からすると住み続けたい	
	3	のんびり気を遣わず生活できる	
	8	新潟市は心も身体も居心地が良いと思う。	
	8	程よく田舎、程よく都会であるため、心も身体も居心地が良いまち	
	8	住みやすい(時間・お金)ゆったりできる生活のため、実際に追われていないし、まちの状況に危機感がない。	
	1	東京より移住し、時給自足で生活をしているがとても住みやすいまち	
	9	新潟の人は親切。ちょうど良い具合に声をかけてくれる距離感がいい。	
	8	思いやりのある地域、環境、人がたくさんいることを、他県の人にも知ってもらいたい。	
	3	どこに行ってもコンビニが多い	
	3	24時間安心して暮らせる(名古屋は専門店が多い)	
	6	東京では消費する暮らしをしていたが、新潟に戻ってきてから古民家をリノベーションして自給自足の暮らしができつつある。	
6	新潟の魅力は、すぐに刺激がもらえるわけじゃないからよい。		
②	4	共生社会になっていない。	みんなが夢や希望をもつ、共生社会にしていく必要がある。
	3	みんな、若者にとって夢・希望がもてる町、多様性を受け入れられるまちになれば暮らし続けたいまちになる。	
③	6	昔(20年ほど前)に比べて、英語の看板が増えたことを実感している。	外国人への理解、支援がされている状況もあるが、外国人に対するサービスや生活支援の充実をさらに図っていく必要がある。
	5	外国人に対してあたたかな印象を受ける。港町だから新しいものを受け入れる土壌があるのではないかな。	
	2	新潟在住の外国人に対して、言葉や異文化理解のサポートがあるまちがいい。医療や保育園利用など、何かあったら気軽に相談できる人や場所がほしい。各種手続きや案内は文章が分かりやすいと助かる。大学では、職員や友人がサポートしてくれるが、他は自分でやるしかなく、難しい。ネットで調べるには限界がある。新潟市でサポートしてほしい。	
④	9	視覚障がい者の独り歩きが難しく、行ける場所が限られるのが現状。(慣れているところを歩いているのでそれほど不便は感じないが、もっと多様な手段によるサポートがあればもっと自由に行動できる。)	障がい者への理解は高まってきているが、まだまだ十分ではない。
	9	障がい者への理解は50%くらい。少しずつ理解は深まっていると思う。	
	9	盲導犬の入店を拒否されることがあり、行動範囲が限られるのが現状。	
	8	地域、人によって子育てや障害者支援に差がある部分があるので、生活や地域行事に参加できる仕組みが必要。	

出された意見のまとめ

	9	バリアフリーやユニバーサルデザインの状況は50%、もっと低いくらいかもしれない。	
	9	字幕付きCMが始まるなど、聴覚障がい者が社会的に認知され始めていると感じている。	
⑤	7	渋谷区は子育て支援が充実している。住み続けたいと思わせる仕組みが素晴らしいので、参考にして欲しい。	子育てする環境整備・子どもへの福祉・教育をもっと充実させる必要がある。
	7	秋葉区の里山幼稚園の取り組みが素晴らしい。	
	7	子供は味覚の成長に必要なから食育や子育て支援などと繋げた活動も面白い。	
	7	社会として、子供を育む場所(福祉)情報が必要。	
	8	子供、障害児、困窮児や障害者への福祉が必要。	
	8	障害児のサポートが弱い、無料食事があれば良い。	
	5	子どもの安全が第一。もっと子供たちの声を聞く必要がある。	
	4	子どもたちにもっと経験をつむ場をつくってあげることが必要	
	4	ストレス社会、子供にも影響しているのか個性がなく一律である	
	5	教育の質の問題と働く場は十分にあるのか?でも住みやすい。	
⑥	3	自然がある	自然に囲まれたいいまちである
	3	海と山→頭を休められる	
	8	山、海、川、町、全部あるまち	
	1	新潟市は住み続けたいまちである。海も川もあって恵まれている。水の豊かさが素晴らしいまち。	
⑦	3	米が旨い	おいしい食材や加工技術があり、食糧自給率も高い。
	1	水は命の源。お米をはじめ美味しい食べ物は水が作り出している。加工技術もある。	
	6	食料自給率が政令指定都市の中で1番高いのが新潟。	
	5	新潟を満喫するには食(胃袋)に訴えかけるのがいい。	
⑧	6	自然との共生を長期的な視点で考えていく。	循環型社会の実現に向け、自然との共存を長期的な視点で考えていく必要がある。
	6	循環型社会を目指す。フードロスを活用した食の循環、廃校を活用した子ども食堂やサードプレイスの運営、子どもや高齢者の今日行く(教育)場所づくりもできる。	
	6	サステナブルな生活を100年計画でつくっていく。	
⑨	1	水の豊かさは港町につながる。水運が発達し人とモノの流れがある。	新潟市は港町としての良さが今も息づいている。この良さをもっと活かしていきたい。
	5	外国人に対してあたたかな印象を受ける。港町だから新しいものを受け入れる土壌があるのではないかな。	
	6	グローバルな企業の拠点を新潟に。みなとまちであることを活用したい。	
	8	良いところいっぱいあるがアピールが下手なまち。	
	2	新潟は魅力的な自然があるのだから、もっと発信した方がいい。	
	5	PRが大事。溢れる情報のなかでどう特化していくか。	
	5	まちあるきが豊富に行われているので、情報をもっと手に入れやすくなるといい。ガイドさんがたくさんいるのにもったいない。	
	8	まちの特色を県内外の人に知ってもらいたい。	
	6	発信力がないけど、そこにいるからこそ知れる良さがある。	

出された意見のまとめ

⑩	9	アートのあるまち。文字情報だけでなくアートと一緒に情報が提供されると良い。野内隆裕さんの小路案内版はとも良い。	新潟市には隠れた魅力がたくさんあるが、それを生かしていない、情報発信が足りない。
	5	新潟には何も無い！が住民の口癖になってしまっている。本当にそうなのか？外から来る人は観光地だけを感じたいのではない。	
	5	自然(海や川)を楽しめる施設がない。生かし切れていない。	
	8	何でもあるが田舎の特色を分かっていないまち	
	5	有名観光地(京都など)ほどのスポットはないけど、新潟にはいいところがたくさん眠っている。	
	5	素材を使えていない。天気のを悪さをプラスに変えていこう。冬の日本海、荒波は美しい。	
	3	新潟らしさを残した改革	
	2	8区の違いは新潟市の面白さにもなっている。	
	6	仕事で区役所を回るが、色んな地域の魅力がある。	
	2	三越、大和がなくなり、古町は人がいなくなってしまった。昔はよかったというだけでなく、将来に向けて何か考えないといけない。	
	3	古町をもっと活用、新潟らしく、古いものに新しさ	
	2	古町の駐車場を無料にする、万代から古町のバス料金を無料にするなどバスを利用しやすくしたらもっと人で賑わうのではないか。	
	7	新潟は自然のものがたくさんあるので、資源を活用したビジネスがしやすいまちだと思う。農福食の連携(食育)に繋がれると思う。	
	5	地元住民だが、意外と知らないこともある。勉強不足。	
	7	新潟市のLINEを活用しているが、使いづらいので、もっと使いやすいLINEにして欲しい。	
4	効率性が重視され、昔の良さがなくなっている。		
5	新潟の人たちは独自の魅力が当たり前なものになっている。		
⑪	2	若者の満足度を上げるまちづくりとして、例えばバイト料を3倍にしてはどうか。→報酬を支払う企業が果たして持つか。住み続けるとい観点からすると表面的な対策は取れないだろう。	若者にとって希望の持てるまちになるための対策が必要である。
	8	希望を与えられる、もてるまちになって欲しい	
	3	みんな、若者にとって夢・希望がもてる町、多様性を受け入れられるまちになれば暮らし続けたいまちになる。	
	5	若い人が外に出たがる傾向がある。外から人が呼べない。魅力がないのか？	
⑫	7	フリーランスには住みづらいまち	やりたい仕事がいいつでもできるような環境が整っていない。
	6	やりたい事ができる。起業や仕事、ライフワーク以外の充実があると良い。	
	6	仕事をしたい人はいるのに、仕事が見つからないという矛盾を抱えている。	
	6	就職先の問題がある。新潟でやりたいことができない、、、遊びに行くところ、働きに行くところが十分にあるのか…	
	7	福祉とデザインを繋げて活動しているが、障害者の働きやすい環境がもっと必要。	
	5	教育の質の問題と働く場は十分にあるのか？でも住みやすい。	
7	もっと農業体験ができると移住や交流人口に関係する。		
7	時代は、消費するだけの生活から抜けたので、移住を考える人は大勢いると思う。		

出された意見のまとめ

⑬	6	外から来た人にとっては魅力的な街なのでは。	UIターン者の受け皿になるまちとしての可能性はある。
	6	人生の第2ラウンドを楽しめる場所。	
	7	新潟は自然のものがたくさんあるので、資源を活用したビジネスがしやすいまちだと思う。農福食の連携(食育)に繋がられると思う。	
	3	都会ならではの近接性。	
	5	若い人の活動やUターンが増えている。	
	6	若者が外に出て知識を身につけて戻ってきてもいい。今は場所を気にせず仕事ができる。	
	8	今はWEB でどこでも仕事ができるようになり、便利になった。	
	8	今はWEB でどこでも仕事ができるようになり、便利になった。	
7	他の都市より街中IT 環境が遅れているので、WIFI 環境強化が必要。		
⑮	7	移住して感じることは、閉鎖感があるまち。地域に入りづらい。	人と人とのつながり、コミュニティが少ない。
	3	地域のつながりがほしい。	
	4	横のつながりのあるコミュニティがすくない。	
	3	近所のサポート・つながり。	
	8	趣味などを通したコミュニティがあると、子供や仕事、仲間、友人と地域活動ができ、住みやすいまちになる。	
	3	コミュニティの場がほしい。	
	3	コミュニティセンターがわからない、学校町にはない。	
	7	人と人のネットワークが必要。	
	8	仲良くなれるコミュニティがあると良い。	
	3	高齢化社会で、こどもたちと地域のまじわりがもっと必要。	
	3	外国からきて一人暮らしで寂しい。	
	3	社会が車中心で便利だけど一人暮らしは寂しい	
	3	ベンチ・公園など、気軽に集まり座って話せる場所が必要	
	3	車社会なので人の交流がない、ベンチが少ない	
⑯	2	学校や病院がもっと近くにあるとよい。新潟市はでかすぎる。8区で事情が異なりすぎるため、「新潟市」という枠で考えにくい。「周辺区」というまとまりで考えることが大事なのではないか。	公共空間など、まちの環境整備が必要。
	9	歩道整備がまだまだ不十分。もっと歩道を広げて欲しい。	
	3	街灯がなくて暗くて危険	
	3	もっと歩道が広ければベンチもおける	
	3	公園が少ない	
	7	他の都市より街中IT 環境が遅れているので、WIFI 環境強化が必要。	
	7	他の都市より街中IT 環境が遅れているので、WIFI 環境強化が必要。	
6	車がなければ暮らしづらい。公共交通は使いにくい。新モビリティの必要性がある。		
8	住み続けるには、交通の便が良いのは大切な要素である。		
1	公共交通機関が複雑で分かりにくい。車に依存した暮らしになっている。免許と車のない人には不便。ホームセンターに行きたいが、郊外にしかなく、車のない学生が行けないという声を聞いた。カーシェアリングをしてはどうかというアイデアも出ていた。		
4	車が多すぎ、路駐がおおく、駐車場が少ない → 公共交通の整備やカーシェア		
4	車が多すぎ、路駐がおおく、駐車場が少ない → 公共交通の整備やカーシェア		

出された意見のまとめ

⑰	9	新潟市は自動車所有が前提になっていて、自動車を運転しない人の人権がない。運転しない人は、自分たちだけではどうにもできない。	新潟市は完全に車社会になっているので、新しい仕組みの導入や、誰でも使いやすい公共交通機関を整備をする必要がある。
	7	新潟駅と空港は中央区に近いのに、不便なので交通網が良くなったら流通や人が循環すると思う。	
	9	西蒲区越前浜は山あり海ありで暮らしやすい。子育てしやすい環境も整っているけれど、自動車がないと生活が難しいので(バスは1日に7~8本)、暮らしやすさは70%。	
	1	点数をつけると50点。障がいのある人と一緒に暮らしているという共通理解がほしい。特に公共交通機関が不便。(移動支援の)設備はあっても壊れているなど、機能しないケースが頻繁。例えば車椅子でバスに乗ろうとした時に、スロープを出してもらったが、点検不足で引っ込まなくなり、バスが発車できなくなって乗客に迷惑をかける。あらゆる面で、誰でも利用できるように整えておく気持ちを持つ人が多くはない。	
	7	バスの市内アクセスが悪い。	
	6	大きいバスがまちなかを走っているが、もっとコンパクトで細かく色んな所をめぐることのできるバスを導入すればいいのでは。	
	7	市内の交通が不便。	
⑱	4	新潟の人はがまん強い、遠慮がち。	その他
	1	同業の生産者が依存し合っている。困った時には農協が助けてくれるというシステムは果たしていいのだろうか。	



〈3〉テーマ3：「2030年を見据え、新潟市のまちづくりはどのような方向に向かうべきか？」

No.	班	テーマに対する意見	集類した意見	集類したテーマ	
①	1	多様性の価値を認め合う。ユニバーサルデザインを取り入れた町へ。	全ての人にとって住みやすい多様性のあるまちをつくる。	共生社会の推進	
	2	障がい者やLGBTsなどの少数派の情報が不足している。孤独や辛さに追い詰められるケースがあるが、自分だけではないと知ることが救いになる。現状を可視化することが大切。福祉やジェンダーの教育が必要。			
	6	福祉サービスが弱いのでどの世代も住みやすいまちを目指そう。モデルとなるまちに。			
	4	共生（・教育、アニメ、啓発、YouTube ・差別、偏見のリアル、再現 ・子どもから）			
	6	障がいを抱えている人、病気を持っている人は住みづらい。高齢者だけでなく、どんな人も受け入れるまちがいい。			
	1	交通状況、観光情報などを知らせる標識や道案内などの情報が少ない。子どもからお年寄り、LGBTQs、みんなが容易に理解できる新潟ならではのピクトグラムがあるといいのではないか。			
	4	公共交通機関のハードはよいが、路線、乗員、車いす用のバス時刻表などのソフト面で障害者や外国人なども使いやすくなる			
	4	グローバリゼーションの社会を築く			
	8	外国の人は言葉などが壁になり、障害となるので、外国語表記などがあると良い。			多文化を理解し、外国人が生活しやすい環境を整える。
	4	全産業で外国人を受け入れやすくする、労働、技術がたりなければ外国人、外国から入れればよい			
	4	障害者、外国人等には新潟はあたたかくサービスや品質はよいが、偏見があるのでもっと理解を深まるまちになるとよい			
	4	日本人と外国人、障害者と健常者、視覚障害者と晴眼者、それぞれの文化の違いを、互いに触れ合い、理解を深め合う			
	8	言葉などが壁になり、障害者や外国人とコミュニケーションが取りづらく、孤立してしまう。			
	4	車いすは大きいから癒えて迷惑になるなどの偏見をなくす			
	4	障害者でもどのレストランにも行けるような差別のない社会	障がいのある人への理解を深め、暮らしやすい環境を整える。		
	4	障害者、外国人等には新潟はあたたかくサービスや品質はよいが、偏見があるのでもっと理解を深まるまちになるとよい			
	4	日本人と外国人、障害者と健常者、視覚障害者と晴眼者、それぞれの文化の違いを、互いに触れ合い、理解を深め合う			
	8	言葉などが壁になり、障害者や外国人とコミュニケーションが取りづらく、孤立してしまう。			

出された意見のまとめ

②	7	移住してきて地域の事が分からない中の子育ては大変だから、子育て支援に新生児セットがあると心強いし子育てしやすくなる。(渋谷区参考)	子どもへの教育、子育て支援の充実を図り、子育てしやすいまちにする。	子育て支援の充実
	7	子育ての役立つ支援が弱い。実際に利用する人の目線になっていない		
	2	医療と教育に力を入れていくべき。		
	2	新潟の自然を生かした食育が大切。幼少期から自然に触れ、無農薬の野菜を積極的に食べる。食育から新潟のことを考え始めることができる。都市型自然を生かす支援をしてほしい。SDGsへ繋がる。		
③	6	福祉サービスが弱いのでどの世代も住みやすいまちを目指そう。モデルとなるまちに。	福祉を充実させて、住みやすいまちをつくる。	福祉の充実
	4	現状でも福祉が充実しているかもっと充実したい社会になるとよい		
	6	障がいを持っている人、病気を持っている人は住みづらい。高齢者だけでなく、どんな人も受け入れるまちがいい。		
	2	医療と教育に力を入れていくべき。		
④	9	2030年、ゼロカーボン・脱炭素を目指す！	脱炭素社会の実現に向け、環境に優しく自然を生かした持続的なまちづくりをする。	自然との共存、脱炭素
	6	自然をもっと生かさそう！		
	1	新潟の美味しい食べ物は豊かな自然無くしては生まれない。近年の気候変動や異常気象などの影響で、農業のやり方も毎年変えなくてはならず苦労している。産地間の協働なども必要だ。カーボンニュートラルへ向け、ICTやAI技術支援を進め、持続可能な農業にしていくことが大切		
	2	新潟の自然を生かした食育が大切。幼少期から自然に触れ、無農薬の野菜を積極的に食べる。食育から新潟のことを考え始めることができる。都市型自然を生かす支援をしてほしい。SDGsへ繋がる。		
⑤	1	新潟の魅力をもっとPRすべき	新潟市の絶対的な魅力をつくり、さらに魅力をもっと外部に発信すべき	魅力の創出・発信
	5	新潟はもっと外へ発信すべき。国際交流は県と市の連携がない。		
	6	新潟市の情報をもっとアップしよう！		
	6	支援がよくない、ほしいものがすぐに見つけられるHPがあるといい。		
	8	地域をPRし移住者を増やす。		
	9	古町や空き家を利用して新しい店を出している人がいる。こういう情報を若者に周知していくことで若い人が集まる。		
	6	長岡(花火)のように、全国から人が来るようなまちを目指そう！もっとお金の動くまちに！		
	3	動物園などがある		
	9	新潟にはいろいろ魅力はあるが、絶対的な魅力に欠ける。		
	9	食べ物が美味しいというだけでは弱い。		
	9	新潟市の日本一を作る。		
	9	「踊る阿呆と見る阿呆」騒いでいる人と見守る人の両方が楽しめる、多様な関わり方ができる祭りになりたい。		
	5	アートを利用するといいのでは。		
	5	大地の芸術祭は盛り上がっているが、水と土の芸術祭はなぜダメなの？		
5	活動している人の後押しが足りない。観光、スポーツ、アート、酒と食を柱にしよう。			

出された意見のまとめ

⑥	1	高齢者支援ばかりが手厚いようだが、高校生の通学支援や、就農支援など、若者を支援する仕組みづくりが必要。	若い人が輝けるような支援体制をつくる。	若者への支援
	9	新潟を目指して学びや仕事に来る人を増やす(今の新潟市では若い人が学べない、働けない。県外の大学へ行き就職で新潟に帰ってきてたくても、魅力的な働き先がなく帰ってこれない)。		
	9	Uターンしたいと思っている若い人たちに希望を与えたい。		
	9	ローカルキャリアを積んでいるかっこいい大人と学生が出会う場所を作る。→学校や教育委員会に働きかけて！教育委員会の壁をぶち壊せ！		
	9	若い人が課題を認知し、解決できるための体制を整えたい。		
	3	夢と希望があるまち、夢を与えるまち、かなえるまち		
	3	県外への人口流出を抑える		
	9	若者中心になりすぎないことも大事。		
⑦	6	企業自体が裕福にならないと持続的に発展しない。新潟市と企業の力を相互的に高めよう。	企業に力があり、誰もが働きやすい、起業しやすいまちにする。	企業・働く人への支援
	7	フリーランスの働く環境を良くしてほしい		
	7	空き店舗の活用として、起業する人に有効活用できると嬉しい。情報拠点など。		
⑧	7	現金がメインだが、インフラを強化しキャッシュレスをもっと多様化するとよい。電子マネーの遅れ。	IT環境を整備し、リモートビジネスがしやすい、場所を選ばず仕事ができるまちにする。	IT環境の充実
	7	新潟でも東京の仕事をしている人が多くいるので、WIFI環境、インフラ整備は必須項目。		
	7	ビジネスに必要なインフラ整備(WIFI,コピー)		
	9	新潟にいながら大企業勤めや多様な仕事ができるよう、リモートワークの環境を整える。そうすることで新潟に留める事ができるのでは。		
⑨	3	公園利活用(Re活用)事業(水辺の会、アルビ、商工団体、若者)として公園を活用し、管理を多様化することでにぎわいを創出する	人が集まる場をつくり、人と人がつながるコミュニティの構築を強化する。	コミュニティの強化
	3	公園などの公共空間を活かし、交流の場、人が集まる場を増やす		
	8	人と触れ合えるコミュニティが必要。それは、サードプレイスや農業体験もそのひとつかもしれない。		
	2	地域コミュニティを作りたくて農園を始めた。学校開放を広げたり、空き家を利用したり、居場所として活用できる。		
	6	農業を生かした体験事業があるといい。おじいちゃん×子どもたちを企業がつなぐ。		
	7	防災支援や地域での防災を強化できる仕組みが必要。防災グッズの期限切れなど促す仕組みはあるのか。		
	8	田舎なのに横の繋がりがないので、もっと触れ合える地域。		
	8	オンラインは年代、地域を超えたコミュニティの場になる。(LINE、ZOOM)		
	8	東区では、町内LINE、ZOOMグループがある。		
	8	人と人のつながりが必要で、言い合える環境を整備したら良くなる。		
	8	伝える、話せる場があると住みやすくなる。		
	8	新潟の魅力を活かしながら新たな取り組みに、支援やコミュニティがあると地域が良くなる。		

出された意見のまとめ

	8	これからもっとコミュニケーションの場が必要で、地域の知らないことを知ることで繋がりができる。(人、場、現状の状況)		
	8	人と繋がる場づくりが必要。		
	8	自分達は比較的平和に暮らしているが、子供たちや若者他に支援、お金、コミュニティの場に目を向ける必要がある。		
	8	今もコミュニティの場があるが、現状では足りていない。		
	8	言えるは癒える、言う気は勇氣！ リハビリが必要。		
	8	コミュニケーション不足からの自殺率が増えている。		
	8	繋がりをつくるコミュニティが大事、子供～年配者の場づくりが必要		
	2	高齢者が健康に元気に過ごす秘訣は、「きょういく」「きょうよう」＝「今日、行くところ」「今日、用がある」。今日行くところや用事があるということが、心身の励みになる。		
⑩	5	新潟は時が止まっているような感覚がある。空き家を外国人に貸して活気づけるのは？	既存の公共空間などを有効活用して、持続的なまちづくりを進めていく。	持続的なまちづくり
	5	新潟は変わっていない。まちとして進化していない。元気がなくなっている。都会になる必要はないが、アップデートは必要。例えば長岡は人が優しい。		
	5	観光地を目指すのか？安全で住みやすいまちなのは大前提。三条や燕は発信を繋げて動き始めている。		
	6	持続的なまちづくりを進めていこう。		
	3	公共空間、川、港を活用する(放課後のデイサービスをスポーツ公園に)		
	3	雪や雨につよい施設の充実として、屋根のある公園・公共空間が必要(寺山公園-全天候型)		
	7	公園の遊具が少ない。		
	7	空き家を公園のようなポケットパークに変えて、歩いて楽しいまちにしたい。車社会からの切り替え。		
	7	謎の空き地を無くしてなにか(公園とか)有効利用してほしい。		
	7	空き地を有効的に使いたい。地域で管理や利用できる仕組み。		
	9	大人が佇める空間が欲しい		
3	車のいらぬまち(自動運行)を目指し、「緑」、「水辺」、「歩く」(昭和記念公園がイメージ)を大切にすまち			
⑪	3	プライベートモビリティ(自動車よりコンパクトで小回りが利き、環境性能に優れ、地域の手軽な移動の足となる1人～2人乗りの車両)の普及を図る。	新潟市全体の交通環境を時代に即して整える	交通環境の向上
	3	車のいらぬまち(自動運行)を目指し、「緑」、「水辺」、「歩く」(昭和記念公園がイメージ)を大切にすまち		
	4	中央区以外は歩みにくいので他の区も中央区と同等に整備される		
	5	魅力を伝えても交通の便が悪く行きづらい。		
	7	駅からのアクセスをもっと手軽な価格で使いやすいようにしてほしい。		
	6	公共交通機関を発達させる。長岡は発達している！		
	8	交通環境は地域に差があるので、もっと移動が便利になるように見直しすと動きやすくなる。		
	8	交通費は経済的な負担になるので、新しいモビリティや乗り合いバスがあれば安く移動できるから生活に負担が少なくなるので良い。		
	9	かっこいいシニアカー(時速15～20km)で走行できる道路空間があると良い。		

9	自転車道、歩行者道、中速で走れる道路など、安全に通行できる空間を整備して欲しい。	
9	ドローンの活用で道の使い方が変わるのでは。	
6	車が運転できなくてもOKなまちがいい。	

出された意見のまとめ

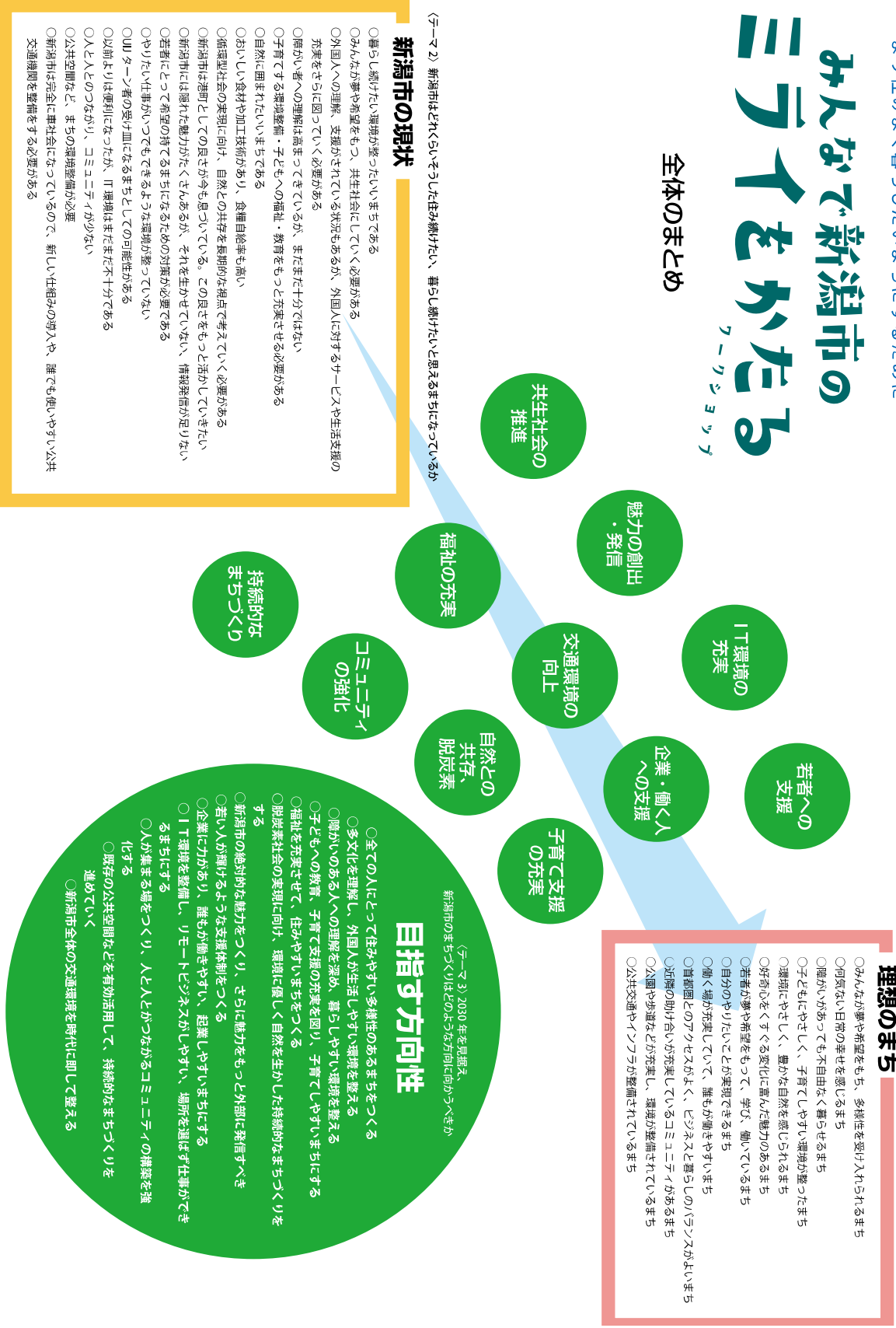


みんなで作る、みんなで創る2030年の新潟市
～より住みよく暮らしたいまちにするために～

みんなで作る みんなで創る 2030年の新潟市

ワークショップ

全体のまとめ



4. ふりかえりシートのまとめ

Q1：全体の満足度

平均値 4.24 ※数値未記入1名分は含まず。

(とても満足した：5 満足した：4 普通：3 不満だった：2 とても不満だった：1 として算出)

Q2：Q1でそう思った理由は？

■とても満足した（12名）

- ・さまざまな方に出会えた。
- ・いろいろな立場の方が参加した。
- ・さまざまな業種の方と交流できたこと。
- ・いろいろな人を集めてくださったことに感謝しています。
- ・多種多様な意見を聞いたこと。
- ・たくさんのご意見を聞きました。
- ・たくさんの方とお話しすることができるプログラムで、新潟の課題や魅力をたくさん知れたから。
(正直、もっと長くお話ししたかったです！話さきれません(笑)。)
- ・グループを替えて多くの方々と話げできた。
- ・自分の意見を言う場があったこと。
- ・話がまとめられた。
- ・知識が増えた。
- ・外国人にも理解しやすかった。
- ・進行がスムーズ。
- ・進行がgdらなくてよかった。(注：原文のまま)
- ・メンバーのレベルの高さ。

■満足した（17名）

- ・いろいろな立場の人、特に若い人の声を聞くことができた。
- ・多様な人に話を聞いて良かった。
- ・いろんな人の意見を聞いたから。
- ・いろいろな人の意見を聞いて良かった。
- ・久しぶりにいろいろな人たちと関わり、意見を聞いて勉強になりました。
- ・外国からの目線で話を聞くことができた。もっと他の人とも話してみたくなりました。
- ・さまざまな立場の方がいて、とても楽しかったです。みなさん思っていることがあり、聞いてよかった。
- ・さまざまな立場の人たちとディスカッションできた！
- ・いろいろな職種や年代の方と意見を交わらせてよかったです。
- ・普段の生活では出会えない年齢・性別・職業の方とお話を行うことができた。
- ・3回に分けて席替えをすることで、いろいろな人のいろいろな意見が聞けた。

出された意見のまとめ

- ・さまざまな方々とお話ができ考えを聞けたこと。同じ思いを共有できたこと。
- ・多様な意見が出た。いろいろな立場の人の意見は貴重だった。
- ・(英文より)自由に意見や関心ごとを共有できたので、とてもいい経験になった。
- ・(英文より) グループメンバーのバックグラウンドの違いに関わらず、相互理解があった。
- ・たくさんの人と話ができただけ。
- ・たくさんの人と話したかったのに、ホストになったため。やはりファシリテーターがいるほうが話しやすかったように思う。
- ・コミュニティという大きな課題なんだと感じた。
- ・スタッフの方が多く、優しい方が多くいらっしまったので、楽しく活動できました。

■普通（4名）

- ・もう少しいろいろな人と意見を交換したかった。
- ・問いが大きすぎたから。
- ・このワークショップの内容が果たして総合計画に反映されるのか疑問なので、モチベーションが湧きにくい。
- ・運営スタッフが常にテーブルに張り付いている（会話に入ってくるわけでもない…）こともあり、スタッフの中で対応にバラツキがある。

■数値未記入（1名）

- ・同じ意見が出やすい環境になりがちかな？と思いました。テーブルごとに課題が異なっても良いかも！？と思います。

Q3：ワークショップへの期待（複数回答）

- ①参加を通じて様々な情報を入手し、視野を広げること 22
- ②様々な知識や経験を持つ人たちと知り合えること 24
- ③まちづくりに関して自分の意見を発信できること 15
- ④地域へ関わる一つのきっかけとなること 15
- ⑤その他 2
 - ・化学反応があることにも期待！
 - ・自分とさまざまな人との知識と経験の可能性

Q4：ワークショップでの気づき

- ・起業に至る道程。出会いの場があれば、若者の気持ちや情報提供できること。
- ・新潟市の魅力、若い人の熱い思い、新潟を好きな人の多さ。
- ・公共交通への不満。
- ・障がい者などへの環境整備。
- ・視点の違う意見で視点の換え方、多方面から見る方向。

- ・同じまちに暮らす人々の多様性。
- ・自分の住んでいる街を私自身が知っているのか？愛しているのか？自分に問いかけるきっかけになった。
- ・昭和戦後のコミュニティと、現在のコミュニティの差が大きくて痛感した。
- ・移住者の方が多い町なんだなと思いました。
- ・新潟には高齢者、障がい者、外国人が気持ちよく住み続けるにはまだまだ課題がある。
- ・自分がこれまで感じていた新潟の魅力をうまく伝えられていないもどかしさ、公園やコミュニティの乏しさなどは多くの人が感じていたことであり、主体的に取り組むべきである。
- ・県内に長く住んで県外に出たことがない人の意見（マイナスの意見）と、県外や国が違う方々が選択して新潟に住んでいる意見（プラスの意見）がこんなにも違うことに驚きました。
- ・普段関わるのが難しい人たち（年代・職種・国・障がいの方々等）とお話しでき、自分の視野の狭さに気づかされました。
- ・どうしたらまちは良くなるのか、他人の意見は非常に参考になりました。
- ・まちづくりに対する多種多様な視点。
- ・新潟市の魅力。
- ・移住者もリターン者も新潟に住み続けたいと考えていること。同時に「寂しい」と感じていること。
- ・その人の環境や立場が違っていると、ひとつの事柄に対して感じ方や意見が違うことがわかって良かった。
- ・新潟はみんなのまち！
- ・多方面の意見は学びがあります。
- ・外国の人たちも新潟に住むこと、働くことの大切さに気づいた。
- ・意外とみんな同じようなことを考えている。
- ・コミュニケーションが少ない新潟市。
- ・いろいろな想いを持った人が多いこと。それを言える場が少ないこと。
- ・同じ思いを持った方々が、年代や職業に関わらず多かったこと。
- ・ワークショップが楽しい！ということ。
- ・良いところもあれば、悪いところもあると気づいた。
- ・新潟の眠っている魅力→出し方
- ・内容を充実させるために、課題の深掘りが必要かと感じました。
- ・三人寄れば文殊の知恵。
- ・出てみたからこそわかること、住まなきゃわからないことがあることを気づきました。
- ・年代によって、その人によって、いろいろな意見があるんだなあと。これをまとめるのは大変だなあと。
- ・他の業種の方が感じている視点を知れたこと。
- ・新潟には魅力があり、まだ伝えきれていない。
- ・長岡市がとても成長していて、新潟市は変わらない。むしろ後退していることを知ることができました。
- ・新潟に住む人がそれぞれの感じる新潟をもっと発信し、気づき、知り合う必要がまだまだある。

- ・いろいろな考えと新潟への愛を感じました。
- ・(英文より) 誰もが新潟の発展のための意見を共有しようとしていたので、心地よかった。

Q5：ワークショップで嬉しかったこと・残念だったこと

■嬉しかったこと

- ・最後の発表で、グループ全体で考え発表できたこと。
- ・高校生の参加が嬉しかった。
- ・相手の話を聞き、自分の考えを話し、交流する楽しさ。
- ・市民のみなさまの考えが知れたこと。
- ・横のつながりができたこと。
- ・自分の住む町をあらためて考える良い機会でした。
- ・参加者のみなさん、スタッフのみなさんが笑顔で優しく話してくださり、また、高校生の私でも対等にお話ししていただいて嬉しかったです。
- ・自身が活動している公園利活用事業での交流は、みなさん重要であると思っ
ていてくれたこと。
- ・新たなつながりができた。
- ・10歳代～60歳代、障がい者、外国人、LGBTsなど多様な人が集まった。
- ・特になし。
- ・多くのことを聞けて、多くの方と出会ったこと。
- ・障がいや外国人の方のリアルな声。
- ・公共交通機関の必要性に対する意見が予想より多かった。
- ・人と人のつながりができたこと。
- ・参加したからこそ出会えた人たちがいたことが何よりも嬉しい。
- ・初めましての方々とざっくばらんに意見交換ができたこと。
- ・ふだん会うことのできない多様な経験を持つ人々の話。
- ・新潟、市に対して興味がある人が多いことに気づけて良かったです。
- ・こういう場に参加できたことはいい経験になりました。
- ・この前のワークショップの方にまた会えたこと、知り合いに会えたこと。
- ・新潟のいいところを知れたこと。
- ・いろいろな意見が聞けたことが嬉しかった。違う意見もありますが、みんな新潟市をより良くするために必要だと思いました。
- ・自分の抱えている住みにくさを伝えられたこと。
- ・Q2と同じ(さまざまな立場の方がいて、とても楽しかったです。みなさん思っていることがあり、聞けてよかった。)
- ・たくさん意見が聞けたこと。
- ・いろんな部分で自分が知らないことがまだ多いということに、あらためて気づくことができた。
- ・いろいろな人に会えたこと。
- ・(英文より) 多様な人たちに出会えた。

■残念だったこと

- ・時間がもう少し欲しかった。

- ・時間が足りなかったです。テーマが一つ一つ重く大きいので、設問を少なくしても良いのではないかと思います。もう少し早く今回のワークショップの資料をいただけたら、テーマを自分の中で深く考えてくることができたのではないかという点が残念でした。
- ・残念ではないが、もっと長くあってもよかった。
- ・もう少し時間があると良かった。具体的にどうすればいいというところまで深めていきたかった。
- ・議論が少し観念的に流れた。新潟の問題点、悪いところ、嫌いなところも掘り下げてよかった。(産業、教育面の遅れをどうするか、男女不平等など)
- ・違う方向性での意見。テーマを一つにすると良いのでは？
- ・たくさん自分の主張と意見も話し合いたかった。
- ・テーマに「課題発掘」的なものがなかった。
- ・もっと移住目線の話ができれば良かった。
- ・強いて言えば、厚着の心配がいらなかったこと。
- ・発表をうまくできず、他の方に助けを求めてしまったこと。
- ・テーマに沿っていない話についついなってしまうこと。
- ・飲み水（ペットボトル）がほしかったです。
- ・(英文より) 水やスナックがなかった。
- ・(英文より) 休憩時間がとても短かった。

■併記

- ・こういった市民の意見が市政に反映されて生活が改善されれば嬉しいですし、そうならなかったら残念です。ワークショップは過程でしかないので、結果を見ないとなんとも言えません。

Q6：まちづくりや市政への関心

- ・教育水準の向上、産業振興による新潟の拠点化。暮らしやすいまちだがそれだけでは他の地域から人をひきつけ呼び寄せることができない。
- ・教育
- ・教育、特に食育について、幼保と小学校の給食の無料化とオーガニック食材の活用促進で子どもたちの貧困や飢餓をなくし、新しい人材を育てることで生産人口を増やし100万人都市にしてほしい。
- ・子育て、教育。新潟市に住んでいる子どもたちが、未来、楽しんで新潟で生活してほしいから。
- ・長期的には教育！共生社会の先進へ。
- ・若い人たちへの投資。
- ・若い人を新潟に呼び込む、引き留める力を創り出すこと→当事者として関心があるから。Uターン、Iターンで新潟に来る人を増やしたいから。
- ・子育て、移住、まちづくり、防災などデザイン面からのアプローチやPRなど。
- ・(暮らし、子育て、これからに) 関わることなので、これからどうなっていくのか情報発信してほしい。
- ・良いところがたくさんあるので、もっとアピールした方が良い。

出された意見のまとめ

- ・弱者に対するまちづくり。
- ・新潟市が弱い人たちにどれだけ目を向け声を聞いてくれるか。現在は、声を聞き目を向けていると感じられないから。
- ・LGBTsの情報や支援、Noism・古町芸妓さんなど芸術面の支援(補助金の制度)について。
- ・異文化理解。
- ・ゼロカーボン、脱炭素
- ・エネルギー(カーボンニュートラル)
- ・ウォークアブルなまちづくり。移動手段、道路空間の利活用の変化。
- ・にいがたユニバーサルまちあるきのとき、いろいろな気づきがたくさんあったから。
- ・自然、公園などの活用。
- ・人々が楽しいこと、楽しく思えること。
- ・住んでいるのもっといい町、暮らしやすい町にしたい。
- ・福祉と観光。
- ・農業、福祉。
- ・今日参加するまでは特に関心がなかった。これを機にどんどん関わっていきたいと思った。
- ・新潟市としてのまちづくりの方針→どこを目指しているのか知りたい。皆で同じ目標に向かってまちづくりをしたい。
- ・都市づくりや建築系の政策が多すぎないか?生活、国際政策にも注力を。
- ・市政に携わる方たちが「変えていこう」という勇気を持って働いているのか気になります。
- ・今なにをやりたくて目標にしてやっているのかが伝わってきていない印象があるので、そこをどうPRしていくのか期待します。
- ・政策決定のプロセス。
- ・ざっくりでいいので、何にどれくらいのお金がかかっているのか興味があります。
- ・ペーパーレスになってほしい、なっているかな?と気にしています。
- ・地域の枠、行政の枠を超えた活動がもっと必要になると思います。よろしくをお願いします。
- ・役所のスタッフが優しくなった。
- ・(英文より)主催者はこのような機会をよくやっていると思う。

Q7:その他、気づいたことなど

- ・こういった機会はもっとあっても良い。例えば、本日が「発散」であれば次回は「集約」するなど。
- ・今回のようなワークショップをまたやってほしい。多くの人に参加してほしいと思った。
- ・もっとさまざまな課題を発掘した骨格のしっかりした長期計画を考えてほしい。
- ・いろいろな人の立場からいろいろな意見が聞けて良かった。知り合うきっかけ、イベント情報を得る機会が増えることがまずは第一歩だと思う。

- ・新潟にはまだまだたくさんの可能性が眠っているのですが、それを知る機会をもっと作り出すことが大切だと思いました。
- ・市も県も他県より遅れていることが多いので、どんどん新しいことをやってもらいたい（真似事ではなく）。
- ・このみなさんの意見をもとに、素敵な新潟市になってほしいです。
- ・もっと人材活用してほしいです。所在地が東京だから、と断りが入る行政の見直しもしてほしいです。
- ・子どもたちの医療や教育にかかる費用を社会として負担することで、子どもたちの貧困をなくし、障がい者も含めた多様な人が安心して働ける環境をつくるのが重要だと思います。まずは食育を目的として、幼保小の給食の無料化と安心安全の食材の利用を行ってもらいたい。新潟の豊かな自然環境を活かした食材をぜひ利用してほしいです。
- ・今回、障がい児を育てている親の団体として参加させてもらい、子育てのしづらさや困り感を伝えられたが、こういう機会がないと逆に市に届けられないと思うと、もっともっといろいろな人の声を聞いてほしいと思います。福祉を必要としている人たちが住みやすく、安心安全な町になってこそ、それを取り巻く方々みんなの住みやすさが生まれるのではないのでしょうか？今日はありがとうございました。
- ・新潟市内にイエナプランスクールをつくってほしいです！
- ・参加者全員が見える（その人を知れる）ようにしてほしい。
- ・せっかくいろんな人と知り合えるのに、最初に知り合いがいる席に行くのは新潟県民らしいですね。リーダーも固定化してる気がします。
- ・運営のみなさん、おつかれさまでした！新潟市政策企画部のみなさんもオブザーブでなく、一緒にワークしましょう！
- ・スライド資料の文字化はすばらしく良かった！
- ・楽しかったです。
- ・楽しい会でした。今後ともよろしく。
- ・初めて参加しましたが、すごく興味深いお話が聞けて充実した時間を過ごせました。ありがとうございました。
- ・自分にできることがわかってきた気がします。ありがとうございました。
- ・ありがとうございました。